親の「テレビリテラシー」と乳児のメディアライフ：語彙の発達も含めて

飽戸　弘・酒井　厚・菅原ますみ

1．目　的

本研究では、２歳児の親のテレビの見方や、テレビへの信頼感といったテレビリテラシーについて検討した。また、こうした親のテレビリテラシーが、子どものテレビ接触量や子どもの語彙数、メディアリテラシーの発達とどのように関連するかを検討した。

2．方　法

２歳児の子どものいる1095家庭を対象に調査を行った。乳児のテレビ・ビデオ接触については映像メディア視聴日誌によって測定を行い、親のテレビリテラシーや、子どもの語彙数およびメディアリテラシー（テレビやビデオ機器の操作可能性を測定する項目）については質問紙により測定した。親のテレビリテラシーについては、作成した尺度の因子分析に基づき、つぎの５つの内容から検討する。テレビは必需品であり空気のような存在であるという「テレビは環境」因子、テレビの裏を読んだり、番組を評価するなどのテレビ“通”度合いを測定する「テレビ熟練」因子、テレビの展開を予想しテレビに浸かって見ているという「テレビへの没入」因子、友達と雑談するようにテレビで対話しストレスを発散するという内容の「テレビとの対話」因子、テレビから元気をもらうことを表す「テレビからの激励」因子である。

3．分　析

親のテレビリテラシーと２歳児のテレビ接触量およびテレビ視聴量との関連については、「テレビは環境」因子の得点が高い親のもとでは、子どもは様々なジャンルのテレビ番組に接する機会が多いことが伺えた。また、「テレビへの没入」因子得点の高い親は、自分の見たいテレビ番組を優先し、子どもに向いている番組をつけない人が少なからずいるという興味深い示唆が得られた。親のテレビリテラシーと２歳児の語彙数やメディアリテラシーの発達との関連では、２歳時点での表出語彙数は、月齢の高い子の方が低い子に比べて、また女子の方が男子に比べて語彙数が多いという属性による違いが認められ、母親のテレビリテラシーにおける「テレビからの激励」因子の得点が高いか、またはテレビへの信頼感が高い母親の子どもほど語彙数が高いことが示された。さらに、子どものメディア接触量との間では、ビデオ視聴の多さと子どもの語彙数の低さとの間に関連が認められ、絵本読み時間の多さと語彙数の多さとの間に関連が認められていた。つぎに、２歳児によるメディアリテラシーについては、男子が女子に比べて有意にメディア機器の操作ができる子どもが多く、中でもビデオ操作に関しては、「テレビは環境」因子の得点が高い親からのプラスの予測が認められた。

4．結　論

親のテレビリテラシーには様々な種類があり、またそれらは２歳児のテレビ接触量や子どもの語彙数、メディアリテラシーの発達にそれぞれ特徴的に関わることが示された。